

はるか

ゆたかな暮らしの
情報紙

令和6年秋号

「ありがとう」を花せるお葬式
東京 千葉 埼玉 神奈川



株式会社 孝行舎

— お見積り無料 ご相談随時受付 —

本社：東京都足立区中央本町 4-17-2
葬儀サロン：東京都足立区中央本町 1-19-2
赤坂営業所：東京都港区赤坂2-14-5 Daiwa赤坂ビル7階

0120-81-5548

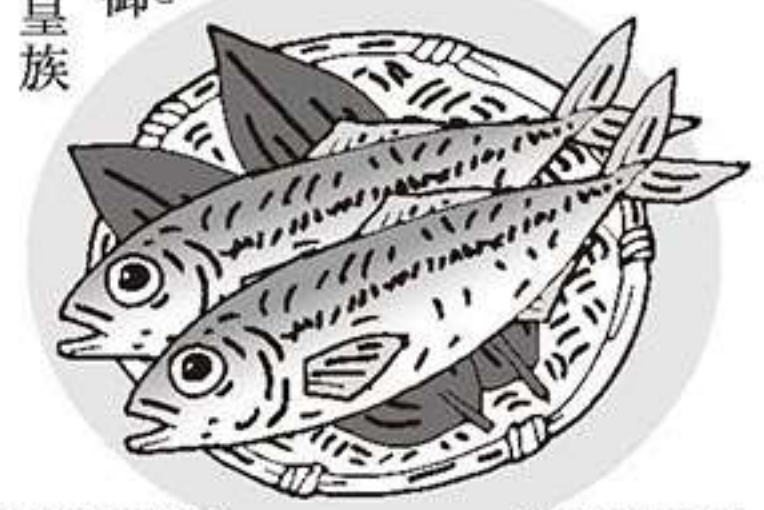
孝行舎 検索

深夜・早朝でもご遠慮なくお電話下さい
24時間・365日寝台車がお迎えにまいります

- すこやか「食」の旅——アジ
- ご存じですか?——「マリー・アントワネット」
- 伝統のモノ——運動会
- 花ものがたり——シオン
- 生活の中の仏教語——我他彼此
- 仏事と葬儀の知識——清拭と湯灌

すこやか
「食」の旅

アジ



「アジ」は、古くは高級魚として重用され、神饌(神様にお供えする飲食物)や供御(ぐご)・くぎよとも/天皇や皇族などの飲食物)として用いられたといえます。しかし今では「アジ」といえばやはり、大衆魚の代名詞というイメージが強いように思われます。

◆新井白石も称えた? 「味」

江戸時代中期の学者、碩学(せきがく)(学問が広く深いこと)で知られた新井白石の『東雅』(語源研究の書)には、「アジ」について「(或る人の説として)アジは味也。其味の美をいへり」と記されているそうです。つまり「アジ」という名前は、その魚の美味しい「味」に由来しているというのです。白石もその説に賛同して自分の書物に載せることにしたのではないのでしょうか。

ほかに、元禄年間に刊行された『本朝食鑑』(食用・医用になる動植物についての書)には、灸食(塩焼き)で食べるのが最もよい。あるいは鮮にしたり煮物にしたり、膾にするのもよい。また腊(干物)もやはりよいものだと、今と変わらない「アジ」の食べ方についての記述もあり、何にしても美味しい「アジ」の万能魚ぶりが紹介されています。

◆郷土料理「なめろう」

前出の『本朝食鑑』でも、「アジ」は駿州(静岡)、豆州(伊豆)と並んで房州・総州(千葉)の海で獲れるものが最も美味しいと太鼓判を押しています。その千葉で、地元ならではの「アジのたたき」なめろう」が郷土料理として受け継がれています。各家々で少し違いがあるかもしれませんが、一般的な作り方を簡単に紹介しましょう。

《なめろうの作り方》

- ①アジを三枚におろして骨を取り、皮を剥ぐ。
- ②①を包丁でたたく。
- ③②にみじん切りにした長ネギ・シヨウガ・味噌・青唐辛子・大葉などを順に混ぜて一緒に包丁でたたく。

因みに「なめろう」の語源は一説に、皿までなめつくすほどおいしいからだといわれます。

◆葛飾北斎が描いたアジ

ところで、浮世絵師・葛飾北斎の油彩画として現存する唯一のものといわれる作品には、大皿にのる「鱒と鰈と栄螺」が描かれています。

当時、外国製の絵の具は御禁制品で、その絵の具で大衆魚の「アジ」を描いたところに、権力に阿る(気に入られようとする)ことを良しとしなかつた北斎の反骨精神が表れているともいわれます。それはさて置き、ぜんご(鱒類の側線上にある棘状の鱗)もしっかりと描かれた「アジ」の姿からも、北斎もまた「アジ」好きだったのではと思われれます。



私たちは、歴史上の人物など一般によく知られている人について「きつとこういう人だったのだ」などと、思い込んでしまっている場合があります。しかし、ときには「こんな意外な面もあったのか」と驚いたり、「私たちとあまり変わらないじゃないか」と、その暮らしぶりに親しみを覚えたりすることもあります。

* *
今回は、断頭台に消えた王妃マリー・アントワネットについてご紹介しましょう。

ご存じですか？

マリー・アントワネット

マリー・アントワネットの生涯については、漫画や映画などでもおなじみですが、伝記によっては印象の全く異なるマリー・アントワネット像が描かれていることもあり、どれが真実なのかと疑問を覚えることも少なくありません。

ですが、マリー・アントワネットに関しては「そのどれもが彼女の一面を表している」と考えるのが妥当なのにも思われます。

■伸び伸びと育った皇女

1755年11月2日、オーストリア大公マリア・テレジアは、15人目の子どもを出産します。マリア・アントニアと名づけられたこの女の子こそ、後にフランス王妃となるマリー・アントワネットです。

若くして名門ハプスブルク家の当主となった母マリア・テレジアは、公的には女帝として君臨しますが、私生活では、初恋の人だったという夫（神聖ローマ帝国皇帝フランツ1世）との生活を大切にすする従順な妻であったともいわれます。

この両親のもとでのウィーンの宮廷生活は、家族でコーラスや劇を楽しむなどとても家庭的で、

一家のそんな団欒の様子は、マリー・アントワネットの姉（次女）マリア・クリステイーナが描いた絵によって、いまも垣間見ることができます。

このように、幼少期のマリー・アントワネットは、温かい家庭で兄姉たちと伸び伸びと育ち、大嫌いな勉強を無理強いされることもなかったと伝えられます。しかし、そんな自由な日々も終わりを告げる時がやってきます。

■一転する人生

女帝マリア・テレジアは、私生活では良き母であったとはいえ、国家のためならば娘たちに政略結婚をさせることも厭いませんでした。

ヨーロッパでの覇権を長年争ってきた相手であるフランス・ブルボン王家の王位継承者に娘を嫁がせ、未来のフランス王妃の座につかせることで、オーストリアとフランスの同盟関係を強固にするという計画は、マリー・アントワネットが9歳の頃にすでに立てられていたといえます。

その結果、1770年5月、14歳の少女は後のフランス国王ルイ16世（当時15歳だった王太子ルイ・オーギュスト）と結婚し、オーストリア・ハプスブルク家から離れてフランス王家の一員となるのです。

因みに、この後、マリー・アントワネットが母マリア・テレジアに再び会うことはありませんでした。

■最後の手紙

ルイ15世の死によって18歳でルイ16世の王妃となり、1793年10月16日に公開処刑されたマリー・アントワネットについては、ひたすら贅沢を好み、派手な生活を送って国費を浪費し、国民の反感を買ったといわれています。しかしまた一方で、狂気に陥った革命の生贄になったという意見もあります。

刑の執行当日、マリー・アントワネットは国王（同年1月にすでに処刑された）の妹エリザベートに宛てて手紙を認めています。

「愛する妹よ、私はいま判決を受けましたが、それは恥ずべき死ではありません。死の判決が恥ずべきなのは、罪人にとってのみで、私にとってはあなたのお兄様に再びお会いできるだけのことです。（中略）良心に何らやましいことのない人すべてがそうであるように、私の気持ちは落ち着いております。（以下略）」

この手紙は義妹に渡されることはなく、処刑後20年余を経て世に明かされるに至ったといえます。

運動会



一昔前までは「運動会」といえば、晴天の秋空の下で催されるものと決まっていたように思いますが、いまでは開催時季もまた様式も変化してきているようです。ここではその「運動会」がいつ、どのような形で始まったのかをご紹介します。

「運動会」のルーツ

「運動会」のルーツの一つは、江戸時代、寺子屋が催した遠足運動会だといわれます。これは、子どもたちが列を組んで野山に出かけ、体を鍛えるというものでした。それとは別に元治元年（1864年）、開国後の幕末において、日本に住む外国人が互いの親睦を深めるために、陸上競技大会を横浜で開催、この大会もまた「運動会」のルーツの一つだといわれています。

では、実際に日本で初めて「運動会」が催されたのはいつのことでしょうか。

「運動会」事始め

それは、明治7年（1874年）3月21日のこと。開催場所は、東京・築地の桂離宮の隣にあった海軍兵学校寮で、そのきっかけをつくったのは、海軍士官養成のために明治政府が招聘（礼を尽くして人を招くこと）

したイギリス海軍のダグラス中佐でした。

そのダグラスが日本側に要望していたクリケット場が、海軍兵学校寮内に完成したことを記念し、競闘遊戯（きそいあそび）と名づけた「運動会」が開かれることになったのです。

イギリスの海軍学校にはスポーツを楽しむ運動場が備えられているのに、日本にはそのような施設はなく、これでは生徒の士気も上がらないと考えたダグラスの発案もあり、一般市民も参加できる「運動会」の第一歩が踏み出されたのです。

しかし、当時の日本では、運動といえば武道の鍛錬ぐらいしかなじみがなく、したがって、日本初の「運動会」のプログラムに記載された18の種目名がなんとも珍妙なものであったのも、仕方のないことかもしれません。

珍妙な種目名

ここでクイズを一つ。

問／初の運動会（競闘遊戯）のプログラムのトップに記載された「すずめのみすだち」とは、どんな競技を指したのでしょうか？

答／（プログラムの説明欄には）「12歳以下の生徒をして150ヤードの距離を疾駆せしむ」とあります。つまり

この競技は、150ヤード（約137メートル）の徒競走のことでした。

他の17種目にも「ぼらのあみごえ（走り高跳び）」「ふるだぬきのつづてうち（球投げ）」など、珍妙な名称が付けられ、これではどんな競技なのか皆目見当が付きません。しかし、競技の説明を読めば、現在の運動会とさほど違わない内容であったことが分かります。

いまに受け継がれる種目

・徒競走……前述の「すずめのみすだち」が日本で初めて行われた徒競走ですが、いまも運動会の花形競技の一つです。
 ・玉入れ……運動会の種目に加わるようになったのは明治30年代後半のことです。当時は、バスケットボールと呼ばれていたそうです。

・綱引き……前出の18種目の中には入っていませんが、早い時期から運動会の常連種目でした。因みに、最も古い綱引きの記録は、戦国時代に織田信長が上杉謙信に贈ったといわれる「洛中洛外図」に描かれた、子どもたちによる正月の綱引き風景だといわれます。

・遊戯……運動会の種目に入ったのは明治40年代のこと。音楽に合わせて踊る遊戯には勝ち負けがなく、いまも運動会場を和ませる種目となっています。

「シオン」

キク科の多年草「シオン」は、日本にも自生してはいますが、古くは薬用植物として中国や朝鮮半島から渡来し、平安時代にはすでに観賞用として栽培されていたといわれています。



和名の「紫苑」は、根が紫色をおびていること、あるいは、漢方では根の部分を「紫苑」ということと由来するともいわれます。また属名のAster（アスター）は、ギリシャ語の「星」を意味する語に由来し、「シオン」の花びらが星のように放射線状に伸びていることから名づけられたものです。

「シオン」は古来和歌や俳句にも登場し、34歳の若さで逝った正岡子規は、病に臥す床からその花を眺め「淋しさを猶も紫苑ののびるなり」と詠んでいます。

平安時代の説話集『今昔物語』にも、父を亡くした兄弟の話の中で「忘れぬ草」として「紫苑」が登場します。父を忘れないために弟が墓前に紫苑を植え、欠かさずお参りをしていたところ、その心根に感心した墓守の鬼から「予知能力」を授けられるという内容で、花言葉も、この説話がもとになっているといわれます。

*花言葉……「追憶」「あなたを忘れない」など。

我他彼此

雨戸などの建てつけが悪くてスムーズに動かなかったり、騒々しい音を立てたりすると、ついイラついて「ガタピシしてしようがないなあ、まったく！」などと言うことがあります。また、人間関係などのさまざまなトラブルを形容して「このところガタピシした状態が続いていて困ってるんだ」などと使われることもあり、「両国関係がガタついてる」などと端折って言い表すこともあります。

このように「我他彼此」は一般に、カタカナで表記されることがほとんどなので、擬音語あるいは擬態語のように思われているかもしれませんが、

しかし「我他彼此」はれっきとした仏教語で、正式には「我他彼此見」といい「我と他、彼と此というように、ものごとを対立してとらえること」を指します。つまり、そのことを発端に摩擦や揉めごとが生じることを戒めているのです。

仏教には「此あるが故に彼あり」というように「なにごともお互いさま」という教えがあります。私たちもそのことを忘れずに日々を穏やかに過ごしたいものです。



清拭と湯灌

「清拭」「湯灌」といっても、とくに若い方には聞き慣れない言葉かもしれません。これはともに、遺体を清めるために施す作法を表す言葉です。

古くは、身を浄めるために川で水を浴びる習慣があり、これを「斎川浴（ゆかわあみ）」といいました。納棺の前に遺体を清めることを意味する「湯灌」は、この「斎川浴」から転じた言葉だともいわれます。

昔は親類縁者が集まって家で「湯灌」を行い、その際には逆さ水（盥に先に水を入れてから湯を注いだぬるま湯）で遺体を清めたものだといえます。しかし現在では、ガーゼや脱脂綿をアルコールに浸して全身を軽く拭く「清拭」が一般的になり、病院で亡くなった場合は看護師が、また自宅では葬儀社の方が行うことが多くなっているようです。

とはいえ、「清拭」は故人のためにできる最後のお世話でもありますので、家族も手伝いたいと希望する場合は、遠慮せずに申し出るようにしましょう。

（※清拭につきましては、地域あるいは葬儀社などによって、その作法が異なる場合もあります）

